

どこがちがう？ 慣用句の直し①

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～気もちの 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- ・問1～4は 下線が 引いて ある。問5からは、気もちに 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～8は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん 兄は 大会で 優勝して、メダルを かけて とくいそうに 立った。

兄は 肩身が狭かった。

→ _____

- (2) 場めん 授業中に 先生を 『お母さん』と まちがえて 呼んで しまい、みんなに わらわれた。

わたしは 鼻が高かった。

→ _____

- (3) 場めん 夏休みの 宿題が、やっと ぜんぶ 終わった。

ぼくは 頭に來た。

→ _____

- (4) 場めん 楽しみに して いた 遠足が、雨で 中止に なった。

みんなは 胸がはずんだ。

→ _____

- (5) 場めん まだ ぶりだ と 思って いた 妹が、はじめて 自転車に のれた。

家族は 腹を立てた。

→ _____

- (6) 場めん 弟が まだ 帰って こない。事故に あって いないか、心配で たまらない。

ぼくは 気が長く 弟の 帰りを 待って いた。

→ _____

- (7) 場めん 弟が ぼくの おもちゃを わざと こわした。

ぼくは 舌を巻いて 弟に どなった。

→ _____

- (8) 場めん あしたは サッカーの 大事な 試合だ。早く プレーを したくて たまらない。

ぼくは 気が重かった。

→ _____

- (9) 場めん 友だちは 毎朝 早く 来て、教室の 花に 水を やって いる。

わたしは 頭が下がる 思いだった。

→ _____

- (10) 場めん 合唱コンクールで、クラスの 歌声を 聞いて、思わず 泣きそうに なった。

わたしは 目を白黒させた。

→ _____

ことばの 箱(問1～8で つかえます。つかわない ことばも あります)

かた
肩を落とす

目を三角にする

胸を張る

耳が痛い

かた
肩の荷が下りる

気が気でない

虫がいい

顔から火が出る

うで
腕が鳴る

目を丸くする



どこがちがう？ 慣用句の直し②

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～こまった 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- ・問1～3は 下線が 引いて ある。問4からは、こまった ようすに 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～6は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん 弟が 何度 注意しても いたずらを やめない。
母は 手を抜いた。
→ _____
- (2) 場めん 朝から 夕方まで 歩き つづけて、もう 一歩も 歩けない ほどだった。
わたしは 足を運んだ。
→ _____
- (3) 場めん けんかを して いる 二人に、わたしが 余計な ことを 言って、もっと もめた。
わたしは 水に流した。
→ _____
- (4) 場めん 高い とびこみ台の 上に 立ったが、こわくて なかなか 決心が つかなかった。
ぼくは 胸を張って いた。
→ _____
- (5) 場めん お店は お客さんで いっぱいで、いそがしくて たまらない。
店の 人は 猫の手も借りたい ほどだった。
→ _____
- (6) 場めん ふいに 後ろから 水を かけられて、びっくりして あわてた。
ぼくは 鼻が高かった。
→ _____
- (7) 場めん テストの 前の日 に なって、まだ 少しも 勉強して いない ことに 気づき、どうして よいか わからなく なった。
ぼくは 肩の荷が下りた。
→ _____
- (8) 場めん みんなが 楽しく 話して いたのに、友だちが 急に 暗い 話を はじめて、その 場が しらけて しまった。
友だちは みんなの 話に 水を差した。
→ _____
- (9) 場めん 広い 校庭の 草むしりを ひとりで ぜんぶ したら、とても たいへんだった。
この 草むしりは 朝飯前だった。
→ _____
- (10) 場めん ひどい うそを つかれて、あきれて 何も 言えなくなった。
わたしは 舌が回った。
→ _____

ことばの 箱(問1～6で つかえます。つかわない ことばも あります)

火に油を注ぐ

目を白黒させる

足が棒になる

とら
虎の子

手を焼く

白羽の矢が立つ

ふ
二の足を踏む



どこがちがう？ 慣用句の直し③

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～人との かかわりの 場めん～

ひづけ _____

- ・問1～2は 下線が 引いて ある。問3からは、人との かかわりに 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～4は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん 重い にもつを 一人では 運べなかった。

友だちが 足を引っ張って くれた。

→ _____

- (2) 場めん 友だちの ひみつを、うっかり 話して しまった。

ぼくは 口が堅^{かた}かった。

→ _____

- (3) 場めん 父は どこへ 行っても、知り合いに 声を かけられる。

父は とても 顔が広い。

→ _____

- (4) 場めん クラスの みんなが 同じ 意見だった。

みんなは 口を挟^{はさ}んだ。

→ _____

- (5) 場めん 兄と 弟が けんかを した とき、母は 弟だけを かばって、味方 に なった。

母は 弟を 鼻であしらった。

→ _____

- (6) 場めん 新しい 友だちと 話すと、好きな ものも 考え方も 同じで、すぐに なかよく なった。

わたしたちは 犬猿^{けんえん}の仲だった。

→ _____

- (7) 場めん けんかを した 友だちと、思っ て いる ことを かくさずに ぜんぶ 話した。

ぼくは 猫^{ねこ}をかぶって 話した。

→ _____

- (8) 場めん 先生が 大切な 話を して いたので、みんな しずかに よく 聞いた。

みんなは 先生の 話に 耳にタコができた。

→ _____

- (9) 場めん 大玉おくりで、クラス全員が 気持ちを 合わせて 同じ ペースで 動いた。

クラス全員が 大きな顔を した。

→ _____

- (10) 場めん おばあちゃんは、庭の 花を 毎日 世話して、大切に 育てて きた。

おばあちゃんは 花を 手塩にかけて 育てた。

→ _____

ことばの 箱(問1～4で つかえます。つかわない ことばも あります)

口をそろえる

図に乗る

手を貸す

腹黒い

口が滑^{すべ}る



どこがちがう？ 慣用句の直し④

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～がんばりと 結果の 場めん～

ひづけ _____

- ・問1は 下線が 引いて ある。問2からは、がんばりや 結果に 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～2は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん ピアノを もっと じょうずに なりたくて、毎日 練習を つづけた。

ぼくは 油を売った。

→ _____

- (2) 場めん 転校生の 絵が とても じょうずで、すっかり 感心した。

わたしは 鼻を折った。

→ _____

- (3) 場めん 入学したばかりの 弟が、水泳の 大会で、みんなが おどろく ほど 速く 泳いで 注目された。

弟は 水泳の 大会で 二の舞^まを演じた。

→ _____

- (4) 場めん 習字を 毎日 つづけたら、字が 前より ずっと きれいに なった。

ぼくは お茶^{にこ}を濁した。

→ _____

- (5) 場めん ずっと 勝てなかった 兄と、ついに 同じくらいの 力に なった。

ぼくは ついに 兄と 雲泥^{うんでい}の差だった。

→ _____

- (6) 場めん なんとなく 引いた くじで、一等が 当たった。

これは ぼくに とって 水の泡^{あわ}だった。

→ _____

- (7) 場めん 司会を 一年 つづけたら、すっかり なれた。

ぼくの 司会は すっかり 板についた。

→ _____

- (8) 場めん マラソン大会で、足が いたくても、くやしさに たえて 走りぬいた。

ぼくは 気を抜^ぬいて 走りぬいた。

→ _____

- (9) 場めん クラスの みんなは、ゆうきさんの 努力を 見て、すごいと みとめた。

みんなは ゆうきさんに 背を向けた。

→ _____

- (10) 場めん この 店の ケーキは 味が たしかだと、だれもが みとめて いる。

この 店の ケーキの 味は 根も葉もない。

→ _____

ことばの 箱(問1～2で つかえます。つかわない ことばも あります)

蛙^{かえる}の子は蛙^{かえる}

腕^{うで}を磨^{みが}く

木で鼻をくくる

舌を巻く



どこがちがう？ 慣用句の直し⑤

なまえ _____

場めんに 合わない 慣用句を 直そう～いろいろな 場めん～

ひづけ _____

- ・下線は 引いて ない。場めんに 合わない 慣用句の ところを 見つけて、自分で 下線を 引こう。
- ・場めんに 合う 慣用句を 自分で 思い出して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・箱は ないよ。場めんに 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん ゆかに 落とした 小さな ビーズを、ひとつも 見のがさない ように、ゆかを じっと 見て さがした。

ぼくは 目を三角にして さがした。

→ _____

- (2) 場めん ずっと わからなかった 算数の 問題が、先生の ひとことで 急に 分かった。

ぼくは ^{かた}肩を落とした。

→ _____

- (3) 場めん ぜんぜん 練習しないで 本番を むかえた。

練習しないで 本番に のぞめば、失敗する ことは 火を見るより明らかだ。

→ _____

- (4) 場めん お店の ショーケースに ならんだ 新しい ゲームが、ほしくて たまらない。

ぼくは 二の足を踏む ^ふほど ほしかった。

→ _____

- (5) 場めん 夜の 暗い 道で、後ろから 急に 大きな 音が して、ぞっと した。

わたしは 胸が熱くなった。

→ _____

- (6) 場めん どちらに するか まよって いたが、さいごは 思いきって やって みる ことに 決めた。

ぼくは ^{こし}^ぬ腰を抜かした。

→ _____

- (7) 場めん 二人の 兄弟は 顔も 声も そっくりで、見分けが つかない。

あの 兄弟は 水と油だ。

→ _____

- (8) 場めん ぼくは 強い 先ばいに 練習の 相手を たのんだ。

ぼくは 強い 先ばいの 胸を借りて 練習した。

→ _____

- (9) 場めん ひと月の お手つだいの お礼は、これだけかと 思う ほど わずかだった。

もらった お金は ^{ねこ}猫の額だった。

→ _____

- (10) 場めん 朝から なんとなく いやな 予感が して いたら、夕方 おじいちゃんが 入院したと 電話が あった。

あの 朝の 予感 ^こは 取り越し苦労だった。

→ _____



どこがちがう？ 慣用句の直し①【こたえ】

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～気もちの 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- (1) 場めん 兄は 大会で 優勝して、メダルを かけて とくいそうに 立った。

兄は 肩身が狭かった。

→ 兄は 胸を張った。

○ 胸を張る=じしんが あって 堂々とする

× 肩身が狭い=はずかしくて 引け目を感じる

- (2) 場めん 授業中に 先生を 『お母さん』と まちがえて 呼んで しまい、みんなに わらわれた。

わたしは 鼻が高かった。

→ わたしは 顔から火が出た。

○ 顔から火が出る=はずかしくて 顔が 赤く なる

× 鼻が高い=ほこらしくて じまんに 思う

- (3) 場めん 夏休みの 宿題が、やっと ぜんぶ 終わった。

ぼくは 頭にきた。

→ ぼくは 肩の荷が下りた。

○ 肩の荷が下りる=せきにんが なくなって ほっと する

× 頭に来る=はらが 立って がまん できない

- (4) 場めん 楽しみに して いた 遠足が、雨で 中止に なった。

みんなは 胸がはずんだ。

→ みんなは 肩を落とした。

○ 肩を落とす=がっかりして 元気を なくす

× 胸がはずむ=うれしくて わくわくする

- (5) 場めん まだ おりだと 思って いた 妹が、はじめて 自転車に のれた。

家族は 腹を立てた。

→ 家族は 目を丸くした。

○ 目を丸くする=おどろいて 目を 大きく ひらく

× 腹を立てる=おこる

- (6) 場めん 弟が まだ 帰って こない。事故に あって いないか、心配で たまらない。

ぼくは 気が長く 弟の 帰りを 待って いた。

→ ぼくは 気が気でなく 弟の 帰りを 待って いた。

○ 気が気でない=しんぱいで 落ち着かない

× 気が長い=のんびり していて ゆっくり 待てる

- (7) 場めん 弟が ぼくのおもちゃを わざと こわした。

ぼくは 舌を巻いて 弟に どなった。

→ ぼくは 目を三角にして 弟に どなった。

○ 目を三角にする=おこって こわい 目に なる

× 舌を巻く=すごさに 感心する

- (8) 場めん あしたは サッカーの 大事な 試合だ。早く プレーを したくて たまらない。

ぼくは 気が重かった。

→ ぼくは 腕が鳴った。

○ 腕が鳴る=力を 見せたくて うずうずする

× 気が重い=ゆううつで 気が すすまない

- (9) 場めん 友だちは 毎朝 早く 来て、教室の 花に 水を やって いる。

わたしは 頭が下がる 思いだった。

→ 直さなくて よい

○ 頭が下がる=りっぱな 行いに 感心して 尊敬する

場めん に 合っ て いる ので 直さ ない。

- (10) 場めん 合唱コンクールで、クラスの 歌声を 聞いて、思わず 泣きそうに なった。

わたしは 目を白黒させた。

→ わたしは 胸が熱くなった。

○ 胸が熱くなる=感どうして 胸が いっぱいになる

× 目を白黒させる=びっくりして あわてる

○の つけ方

こたえは 一れいです。場めん に 合う 意味の 慣用句なら、ここに ない 慣用句でも、おわりの かたち が ちがって も ○。

☐ 下線を 引けた ☐ 場めん に 合う 慣用句に 直せた ☐ 直さなくて よい 文(問9)は『なおさない』と 書けた

どこがちがう？ 慣用句の直し②【こたえ】

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～こまった 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- (1) 場めん 弟が 何度 注意しても いたずらを やめない。
母は 手を抜いた。
→ 母は 手を焼いた。
○ 手を焼く=あつかいに こまる
× 手を抜く=いいかげんに する
- (2) 場めん 朝から 夕方まで 歩き つづけて、もう 一歩も 歩けない ほどだった。
わたしは 足を運んだ。
→ わたしは 足が棒になった。
○ 足が棒になる=歩きすぎて つかれる
× 足を運ぶ=わざわざ 出かける
- (3) 場めん けんかを して いる 二人に、わたしが 余計な ことを 言って、もっと もめた。
わたしは 水に流した。
→ わたしは 火に油を注いだ。
○ 火に油を注ぐ=いきおいを もっと 強くする
× 水に流す=いざこざを なかった ことに する
- (4) 場めん 高い とびこみ台の 上に 立ったが、こわくて なかなか 決心が つかなかった。
ぼくは 胸を張って いた。
→ ぼくは 二の足を踏んで いた。
○ 二の足を踏む=ためらって 決められない
× 胸を張る=じしんが あって 堂々とする
- (5) 場めん お店は お客さんで いっぱいで、いそがしくて たまらない。
店の 人は 猫の手も借りたい ほどだった。
→ 直さなくて よい
○ 猫の手も借りたい=いそがしくて 手つだいが ほしい
場めん に 合っているので 直さない。
- (6) 場めん ふいに 後ろから 水を かけられて、びっくりして あわてた。
ぼくは 鼻が高かった。
→ ぼくは 目を白黒させた。
○ 目を白黒させる=びっくりして あわてる
× 鼻が高い=ほこらしくて じまんに 思う
- (7) 場めん テストの 前の日 に なって、まだ 少しも 勉強して いない ことに 気づき、どうして よいか わからなく なった。
ぼくは 肩の荷が下りた。
→ ぼくは 頭を抱えた。
○ 頭を抱える=こまり はてる(ほかに: 頭を悩ます)
× 肩の荷が下りる=せきにんが なくなって ほっと する
- (8) 場めん みんなが 楽しく 話して いたのに、友だちが 急に 暗い 話を はじめて、その 場が しらけて しまった。
友だちは みんなの 話に 水を差した。
→ 直さなくて よい
○ 水を差す=じゃまを する
場めん に 合っているので 直さない。
- (9) 場めん 広い 校庭の 草むしりを ひとりで ぜんぶ したら、とても たいへんだった。
この 草むしりは 朝飯前だった。
→ この 草むしりは 骨が折れた。
○ 骨が折れる=たいへんで 苦労する
× 朝飯前=とても かんたんな こと
- (10) 場めん ひどい うそを つかれて、あきれて 何も 言えなくなった。
わたしは 舌が回った。
→ わたしは 二の舌が継げなかった。
○ 二の舌が継げない=あきれて 言葉が 出ない
× 舌が回る=よく しゃべる

○の つけ方

こたえは 一れいです。場めん に 合う 意味の 慣用句なら、ここに ない 慣用句でも、おわりの かたち が ちがっても ○。

☐ 下線を 引けた ☐ 場めん に 合う 慣用句に 直せた ☐ 直さなくて よい 文(問5・問8)は『なおさない』と 書けた

どこがちがう？ 慣用句の直し③【こたえ】

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～人との かかわりの 場めん～

ひづけ _____

- (1) 場めん 重い にもつを 一人では 運べなかった。

友だちが 足を引っ張って くれた。

→ 友だちが 手を貸して くれた。

○ 手を貸す=手つだう

× 足を引っ張る=じゃまを する

- (2) 場めん 友だちの ひみつを、うっかり 話して しまった。

ぼくは 口が堅かった。

→ ぼくは 口が滑った。

○ 口が滑る=うっかり しゃべって しまう

× 口が堅い=ひみつを 守る

- (3) 場めん 父は どこへ 行っても、知り合いに 声を かけられる。

父は とても 顔が広い。

→ 直さなくて よい

○ 顔が広い=知り合いが 多い

場めん に 合っ て いる ので 直さ ない。

- (4) 場めん クラスの みんなが 同じ 意見だった。

みんなは 口を挟んだ。

→ みんなは 口をそろえた。

○ 口をそろえる=みんなが 同じ ことを 言う

× 口を挟む=人の 話に わりこむ

- (5) 場めん 兄と 弟が けんかを した とき、母は 弟だけを かばって、味方に なった。

母は 弟を 鼻であしらった。

→ 母は 弟の 肩を持った。

○ 肩を持つ=味方 を して かばう(ほかに: 肩入れする)

× 鼻であしらう=ばかに して 冷たく あつかう

- (6) 場めん 新しい 友だちと 話す と、好きな ものも 考え方も 同じで、すぐに なかよく なった。

わたしたちは 犬猿の仲だった。

→ わたしたちは 馬が合った。

○ 馬が合う=気が 合っ て なかよく できる(ほかに: 気が合う)

× 犬猿の仲=とても 仲が 悪い

- (7) 場めん けんかを した 友だちと、思っ て いる ことを かくさず に ぜんぶ 話した。

ぼくは 猫をかぶって 話した。

→ ぼくは 腹を割って 話した。

○ 腹を割って話す=かくさず に 本心 を 話す(ほかに: 腹を割る)

× 猫をかぶる=本当の すがたを かくし て おとなしく 見せる

- (8) 場めん 先生が 大切な 話を して いたので、みんな しずか に よく 聞いた。

みんなは 先生の 話 に 耳にタコができた。

→ みんなは 先生の 話 に 耳を傾けた。

○ 耳を傾ける=熱心 に 聞く(ほかに: 耳をすます)

× 耳にタコができる=同じ ことを 何度も 聞かされる

- (9) 場めん 大玉おくりで、クラス全員が 気持ちを 合わせて 同じ ペースで 動いた。

クラス全員が 大きな顔を した。

→ クラス全員が 足並みをそろえた。

○ 足並みをそろえる=みんな で 動きを そろえる(ほかに: 歩調を合わせる)

× 大きな顔をする=いばっ た たいどを とる

- (10) 場めん おばあちゃんは、庭の 花を 毎日 世話して、大切に 育てて きた。

おばあちゃんは 花を 手塩にかけて 育てた。

→ 直さなくて よい

○ 手塩にかける=大切に 世話して 育てる

場めん に 合っ て いる ので 直さ ない。

○の つけ方

こたえは 一れい です。場めん に 合う 意味の 慣用句 なら、ここ に ない 慣用句 でも、おわりの かたち が ちがっ て も ○。

□ 下線を 引けた □ 場めん に 合う 慣用句 に 直せた □ 直さなくて よい 文(問3・問10)は『なおさない』と 書けた

どこがちがう？ 慣用句の直し④【こたえ】

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～がんばりと 結果の 場めん～

ひづけ _____

- (1) 場めん ピアノを もっと じょうずに なりたくて、毎日 練習を つづけた。

ぼくは 油を売った。

→ ぼくは 腕を磨いた。

- 腕を磨く=うでまを 高める どりよくを する
× 油を売る=しごとの とちゅうで むだ話を する

- (2) 場めん 転校生の 絵が とても じょうずで、すっかり 感心した。

わたしは 鼻を折った。

→ わたしは 舌を巻いた。

- 舌を巻く=すごさに 感心する
× 鼻を折る=あいての 自しんを くじく

- (3) 場めん 入学したばかりの 弟が、水泳の 大会で、みんなが おどろく ほど 速く 泳いで 注目された。

弟は 水泳の 大会で 二の舞を演じた。

→ 弟は 水泳の 大会で 頭角を現した。

- 頭角を現す=才能が みとめられ はじめる
× 二の舞を演じる=同じ しっぱいを くりかえす

- (4) 場めん 習字を 毎日 つづけたら、字が 前より ずっと きれいに なった。

ぼくは お茶を濁した。

→ ぼくは 腕が上がった。

- 腕が上がる=じょうたつする
× お茶を濁す=その場しのぎで ごまかす

- (5) 場めん ずっと 勝てなかった 兄と、ついに 同じくらいの 力に なった。

ぼくは ついに 兄と 雲泥の差だった。

→ ぼくは ついに 兄と 肩を並べた。

- 肩を並べる=同じくらいの 力に なる
× 雲泥の差=とても 大きな ちがひ

- (6) 場めん なんとなく 引いた くじで、一等が 当たった。

これは ぼくに にとって 水の泡だった。

→ これは ぼくに にとって 棚からぼたもちだった。

- 棚からぼたもち=思いがけない 幸運
× 水の泡=どりよくが むだに なる

- (7) 場めん 司会を 一年 つづけたら、すっかり なれた。

ぼくの 司会は すっかり 板についた。

→ 直さなくて よい

- 板につく=なれて ぴったり 合う
場めん に 合っ て いる ので 直さ ない。

- (8) 場めん マラソン大会で、足が いたくても、くやしさに たえて 走りぬいた。

ぼくは 気を抜いて 走りぬいた。

→ ぼくは 歯を食いしばって 走りぬいた。

- 歯を食いしばる=くるしさを こらえて がんばる
× 気を抜く=ゆだんする

- (9) 場めん クラスの みんなは、ゆうきさんの 努力を 見て、すごいと みとめた。

みんなは ゆうきさんに 背を向けた。

→ みんなは ゆうきさんに 一目置いた。

- 一目置く=すぐれて いると みとめて うやまう
× 背を向ける=あいてに 関心 を 持た なく なる

- (10) 場めん この 店の ケーキは 味が たしかだと、だれもが みとめて いる。

この 店の ケーキの 味は 根も葉もない。

→ この 店の ケーキの 味は 折り紙付きだ。

- 折り紙付き=たしかだと 保証されて いる(ほかに: 太鼓判を押す)
× 根も葉もない=まったく 理由が ない

○の つけ方

こたえは 一れい です。場めん に 合う 意味の 慣用句 なら、ここ に ない 慣用句 でも、おわりの かたち が ちが っても ○。

☐ 下線を 引いた ☐ 場めん に 合う 慣用句 に 直 せた ☐ 直さ なく て よい 文 (問 7) は『な おさ ない』と 書 けた

どこがちがう？ 慣用句の直し⑤【こたえ】

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～いろいろな 場めん～

なまえ _____
ひづけ _____

- (1) 場めん ゆかに 落とした 小さな ビーズを、ひとつも 見のがさない ように、ゆかを じっと 見て さがした。
ぼくは 目を三角にして さがした。
→ ぼくは 目を皿にして さがした。
○ 目を皿にする=目を 大きく 開いて 熱心に 見る
× 目を三角にする=おこって こわい 目になる
- (2) 場めん ずっと わからなかった 算数の 問題が、先生の ひとことで 急に 分かった。
ぼくは 肩を落とした。
→ ぼくは 目からうろこが落ちた。
○ 目からうろこが落ちる=きゅうに よく わかるようになる
× 肩を落とす=がっかりして 元気を なくす
- (3) 場めん ぜんぜん 練習しないで 本番を むかえた。
練習しないで 本番に のぞめば、失敗する ことは 火を見るより明らかだ。
→ 直さなくて よい
○ 火を見るより明らか=うたがう よちが ないほど はっきりして いる
場めん に 合っている ので 直さない。
- (4) 場めん お店の ショーケースに ならんだ 新しい ゲームが、ほしくて たまらない。
ぼくは 二の足を踏む ほど ほしかった。
→ ぼくは のどから手が出る ほど ほしかった。
○ のどから手が出る=ほしくて たまらない
× 二の足を踏む=ためらって 決められない
- (5) 場めん 夜の 暗い 道で、後ろから 急に 大きな 音が して、ぞっと した。
わたしは 胸が熱くなった。
→ わたしは 鳥肌が立った。
○ 鳥肌が立つ=ぞっと して はだが ぶつぶつになる
× 胸が熱くなる=感どうして 胸が いっぱいになる
- (6) 場めん どちらに するか まよって いたが、さいごは 思いきって やって みる ことに 決めた。
ぼくは 腰を抜かした。
→ ぼくは 腹を決めた。
○ 腹を決める=まよいを やめて 決心する(ほかに: 腹をくくる)
× 腰を抜かす=おどろいて 立てなく なる
- (7) 場めん 二人の 兄弟は 顔も 声も そっくりで、見分けが つかない。
あの 兄弟は 水と油だ。
→ あの 兄弟は うり二つだ。
○ うり二つ=そっくり よく 似て いる
× 水と油=性格が 合わず 仲が 悪い
- (8) 場めん ぼくは 強い 先ばいに 練習の 相手を たのんだ。
ぼくは 強い 先ばいの 胸を借りて 練習した。
→ 直さなくて よい
○ 胸を借りる=強い 相手に 練習の 相手を してもらう
場めん に 合っている ので 直さない。
- (9) 場めん ひと月の お手つだいの お礼は、これだけかと思う ほど わずかだった。
もらった お金は 猫の額だった。
→ もらった お金は スズメの涙だった。
○ スズメの涙=ほんの わずかな 量
× 猫の額=場所が とても せまい
- (10) 場めん 朝から なんとなく いやな 予感が して いたら、夕方 おじいちゃんが 入院したと 電話が あった。
あの 朝の 予感は 取り越し苦労だった。
→ あの 朝の 予感は 虫の知らせだった。
○ 虫の知らせ=悪い 事が 起こりそうな 予感
× 取り越し苦労=まだ 起きて いない ことを しんぱいする

○の つけ方

こたえは 一れいです。場めん に 合う 意味の 慣用句なら、ここに ない 慣用句でも、おわりの かたち が ちがっても ○。

□ 下線を 引けた □ 場めん に 合う 慣用句に 直せた □ 直さなくて よい 文(問3・問8)は『なおさない』と 書けた